

# ルーサン試作の生態観察(上)

福島県農業会議々員 農博 小森 健 治

福島では、三五年を基準年度に二万二千頭の乳牛を、四五年には七万四千頭に、五十年度には十万頭に増加する大目標を立て計画を進めている。一方肉牛も需要が多く、適地でもあるので、最終年度十二万頭をめざしている。これらの飼料基盤の拡大整備に大わらわで、吾妻山ろくの大規模草地開発などを始め、農業構造改善事業による市町村営牧野造成や、小規模草地造成などが全県下各地方にさかんである。

しかしそれだけに当面する問題も、決して少なくはないようだが、筆者はここに草種とルーサン(アルファルファ)をおもに限定して、紹介と問題の提起をし大方の批判と高教を仰ぎたいと思う。

## ルーサンは自然にまかせて

ここにかかげた各表は、県が昨年まで奨励方針として打ち出した草種と、目的別の混ばん例である。残念ながらルーサンは、この表の中のどれにもなく、『ルーサンは自然に任せて』というのが現状。安全確実を考へての方針としてはよいことだが、一

戸当り一畝前後の、零細経営では、小面積から、多量の栄養に富む草種の選択が必要で、この点から考えると、むしろルーサンの必要度は、北海道よりもはるかに強いということができよう。

しかしこれには理由のあることで、筆者が最近酪農先覚者とあつて話しあつた事項を整理してみると次のようである。また県農政部長早川理久氏は、今年からはルーサンも奨励したいと語っている。

## 二つの放牧場

草種の混ばん例は、以上のとおりだが、なお県内で代表的な二つの放牧場を写真で紹介する。

一つは機械開墾方式によるもの(岩代町)他の一つはニュージラランド方式あるいは、蹄耕法と呼ばれるものだ。これは(古殿町)肉畜主体の新設牧場だ。いずれもルーサンは入っていない。

## ルーサンを語る人びとの話

(一) ルーサンは牧草の王者だ。という話し

福島県に適した牧草の種類 (県の指針)

イネ科	ネコ科	利用目的別の混播例 (10㎡当り kg)		
イ	ネ	オーチャードグラス, イタリアンライグラス, H・ワンライグラス, ペレニアルライグラス		
ま	め	レッドクローバ, ラデノクローバ, ヘアリーベッチ, レンゲ		
繁	牧	放	牧	
長	期	刈	取	
				2.0~2.5
				0.3~0.5
				0.3~0.5
				0.2~0.3
新	採	地		
(生)	草	(用)		
				1.8~2.0
				0.2~0.3
				0.2~0.3
				0.3
				0.3
				0.1
新	放	地		
	牧	(用)		
				2.0
				0.1
				0.2
				0.2
				0.3
				0.2
				0.1
新	採	地		
(乾)	草	(用)		
				1.8~2.0
				0.2~0.3
				0.2~0.3
				0.3
				0.4~0.5

(注) 1 播種期は秋まきをすすめたい。  
2 基肥は、成分量で、N 6<sup>キロ</sup>, P 8<sup>キロ</sup>, K 10<sup>キロ</sup>。  
3 追肥は、N 3~4<sup>キロ</sup>, P 4~5<sup>キロ</sup>, K 3~4<sup>キロ</sup>。

は大分前からよく聞かされるが、その栽培法を具体的に教えてくれた人はない。

(二) 酪農先覚者で、ルーサンを試作してみた人はかなり数多くあるが、特にルーサン根粒菌が、必要であることをおそわつたことがない。従つて正確な接種使用法も知らない人が多い。

(三) 先駆者の多くは、一般的に、牧草は混播がよいとおそわつているのでルーサンもオーチャードなどと共に混播している。このため種苗時に成育のおそいルーサンは、雑草よりはむしろオーチャード等のイネ科混播牧草のために圧倒されて失敗したとみられる形跡が多い。

(四) 成功例をみると、小面積のルーサン単播(多くは八寸角ぐらいの正条まき)が多

い。しかしこれらは、自然のおう盛な地方と肥料(特に豚・鶏ふん)に物をいわせ、栽培に成功していると評したい。

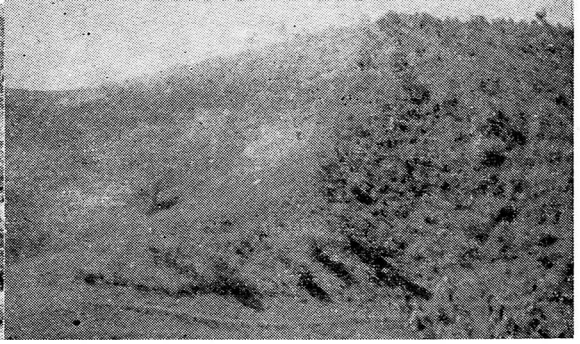
(五) 前者の例にも根粒菌の接種を行なつた。という農家に接しない。(本県では菌の入手困難という事情もある)

(六) ある農業高校の先生いわく、ルーサンは根粒菌を接種しなくとも、僕の農場ではよく出来た。豚ふんを基肥にしていますからと。(註・根粒菌接種済の種子もある。)

(七) 有効な根粒菌の接種のない場合、そのルーサンは正常なマメ科植物としての生態能力を発揮していないのですから、一度何等かの障害にあつたと、たちまち弱点を発揮して消え去るという結果になるのではないのでしょうか。最近公表のバートン博士の研

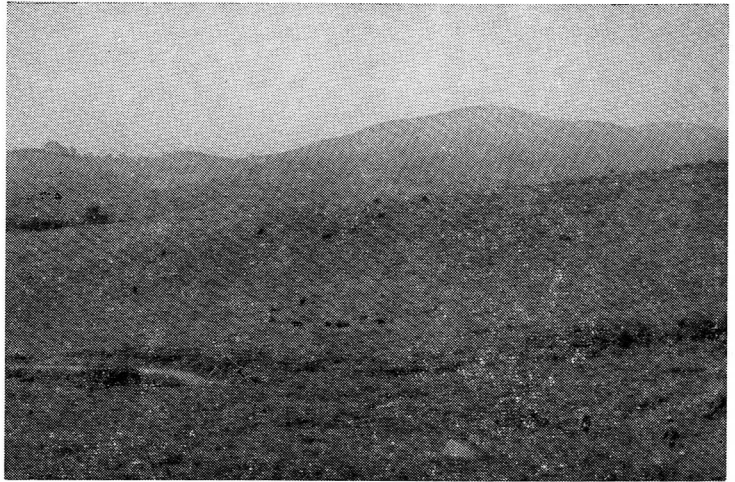


重放牧終了直前(約1日前)



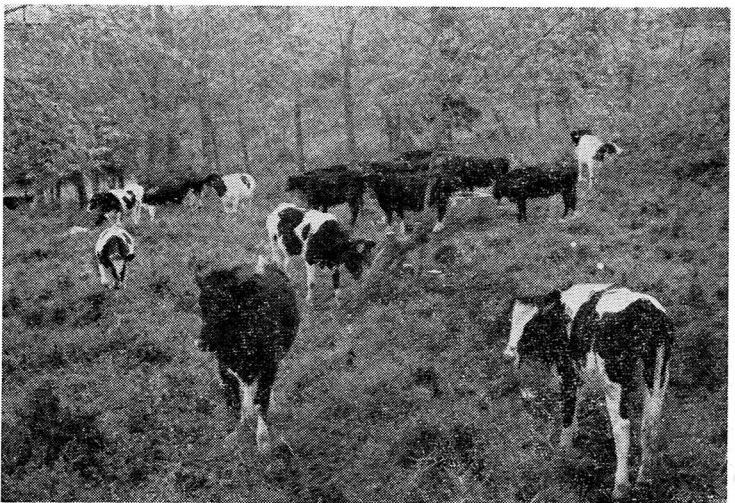
左が重放牧完了区に土壤改良資材(炭カル)施肥 右は未放牧区

阿武隈山系岩代町の町営牧場全景 (機械開墾方式)



福島県の誇る放牧場の一つ。岩代町はルーサン試作を予定。この牧場は30haで昭和35~36年に造成され、標高はおよそ500m。毎年、追肥、追播等の管理手入れも徹底して行なっている。

岩代町営牧場内の日蔭樹林に集まる乳牛



草生が良く、畜主の喜ぶ牧場になっている。唯一の問題はケンタッキー31フェスクの嗜好が悪いので食べられず雑草化している。造成当時の草種はオーチャードグラス1.2キロ、イタリアンライグラス0.5キロ、ペレニアルライグラス0.5キロ、ケンタッキー31フェスク0.3キロ、ラデノクロバ0.2キロ、赤クロバ0.3キロの計3.0キロ(10ア当たり)

(八) 究はご参考になるでしょうかとお答えしました。数年前ルーサンを混播したという圃場をみた。一〇ア当たりおよそ二~三本のルーサンがあちこちに生き残っている。不思議とこの残った二~三本のルーサンは強く、いくら刈っても消えないという。これは何が原因か究明の要がある。

生態観察のため鉢植え配付

筆者は、県開拓連等の好意で昨年四種のルーサンを、八月五日にまき、九月十日に鉢に移植し、県下酪農青年(主として開拓)

五十余名と農業高校、改良普及所等に分譲し試作をおすすめした。

鉢植えにあえてした理由は、ルーサンの試作による、正しい生態観察をしていたらよかったためであった。また特に鉢に植えたのは盛夏の候移植いたみを防ぐ意味もあったが、より根粒菌の接種を苗床で、自からの手で、完全に近く、じゅうぶんに行ないたかったからであった。また余分の土も(根粒菌の存在する)大切に、定植の際に根

元に使ってほしかったためである。またはなはだ不じゅうぶんではあつたが、この鉢

植えには、ルーサン試作説明書を添付した。ここで一言付言したいことは、ルーサンに限定しないが、稚苗時に弱い習性をもつため科牧草類は、東北では特に移植が成功するという現実だ。このことは過去二十数年東北農村をめぐるうちに、東北の農家諸君の経験からおそわった貴重な技術だ。ルーサンだけでなく赤クロバも、オーチャードも無論同様である。(つづく)

ルーサン特集号の残部がありますので御希望の方は弊社までお申込下さい。(〒30キロ)